

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 3月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471900518		
法人名	社会福祉法人慈照会		
事業所名	グループホーム ふの慈照園		
所在地	三次市布野町上布野 1 0 5 9 - 2 (電話) 0 8 2 4 - 5 4 - 7 1 1 1		
自己評価作成日	平成26年2月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3471900518-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年3月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「笑顔・安心・応援」の基本理念のもとに、利用者・家族に家庭的な雰囲気のなかで、安心して暮らしてもらえる事業所を目指しています。開所の次年度より、年間を通じ延べ約1300人の面会者あり、出来るだけこの状況を維持し、家族や親戚等のコミュニケーションを親密にし情報を共有し、認知症の方が安心した日常生活を送れるようにしたい。地域との関りについて、一昨年から取組んでいる通学路等の清掃も定例化し、地域の人々からも「ご苦労様です」という言葉も頂くようになった。少しでも地域との関りを深める様に色々な場を通じ協力・実施・協働していきたい。また、高齢・重度化による健康管理や認知症研修等職員の質の向上にも取組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この事業所の運営母体の医療法人微風会は市や社会福祉協議会との連携のもと一般市民や医療・福祉関係者等を対象に『認知症研究会講座』を市中心部のホールで開催する等、認知症に関する地域のパイオニア的な役割を担っている。また、この事業所は市の委託を受け運営されているだけに市の担当部署とのパイプは太く、運営に関しての連絡や相談が密に行われている。この事業所の特質としては「医師の定期的な健診があり医療面、特に認知症状で心強い事」「行政の眼が常に注がれているため運営状況はオープンで、安心して安定した運営が行われている」点があげられる。更に、事業所の運営理念は全スタッフに浸透し日々の活動の指針として実践に活かされ、安心と笑顔の溢れた共同生活が実現している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の運営理念を基に、「グループホームふの慈照園」独自の基本理念を策定し、毎日朝礼で唱和確認している。	開設当初、スタッフ全員が意見を出し合い事業所独自の基本理念が作られた。「笑顔・安心・応援」の三つのキーワードが強調された覚え易く、身に付きやすい表現となっている。近年、その見直しが全員で討議され、そのことにより更に理念に対する理解・愛着が深まり、日々の活動における指針となり実践に活かされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の奉仕活動(地域を決め、月2度の市道山家線の清掃と、地域の一部通学路清掃)や行事(秋祭・とんど等)に参加し、地域の保育所などとも遊技披露などで交流している。	近隣の市道や通学路の清掃は地域に受け入れられ「ごころさま！」と住民よりねぎらいの言葉をかけられるようになった。また、保育所との交流も回を重ね、最近では先方より「やりましょう」と声が掛かるまでになった。近隣住民とも除雪や野菜のやり取り等を通じて、ご近所としての関係が強まりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	医療機関の協力の基、以前は地域の方を中心とした認知症講演会を開催していたが、現在は全市的取り組みを実施し地域の方の参加を呼びかけている。キャラバンメイトに参加し地域研修や交流にも務めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で意見を聴いて、サービスの向上や地域防災など地域との関わり方などの意見を取り入れ、サービスの向上に取組んでいる。又、地域広報誌の一部に「ふの慈照園だより」の掲載意見があり、現在2ヶ月に一度の掲載に取組んでいる。	運営推進会議は今まで年に4～5回、随時実施していたが、今年より年6回、しかも定期開催に改善し取り組んでいる。事業所の近況報告に続き出席者による意見交換がされ、地域広報誌に「ふの慈照園だより」を掲載してはどうか」という意見もその場で提案され実現した。会議が運営・改善に活かされている。	三次市保健課・地域社会福祉協議会や支所の保健師等の行政関係者の他、地域民生委員やボランティア関係者等の多彩な出席者のもと開催されているが、家族の参加がないのは寂しい。「家族の要望・意見を反映した運営・サービスの向上」を計る意味で引き続き、家族の参加呼びかけが継続される事を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市とは、常に連絡を取り介護保険法の取り扱いについて情報交換しながら、指導を受けている。運営推進会議には毎回出席していただき情報提供などをうけている。	市より委託を受けて運営されているだけに、毎回、運営推進会議に市の担当者・地区代表者が出席し意見交換されている。また、日常の運営上の疑問点等も速やかに連絡がされ、行政との緊密な協力関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	常に身体拘束を認めないケアに取り組んでいる。研修会・勉強会にも積極的に参加できるように取り組み職員も認識している。	年一回、身体拘束に関する法人内研修があり職員が交代で参加し、その内容は研修報告としてまとめられ全員に回覧し共有されている。身体拘束に関しての家族への報告書や同意書の原本は書類としてファイルはされているが、今まで一度も使用されたこともなく身体拘束のないケアが徹底・実践されている。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	研修する中で、常に高齢者の虐待防止に努めている。管理者は常に利用者の表情を確認するなど異変に気付くようしている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	研修等で必要性を学び伝達研修等で周知している。また広報誌や家族会で必要性を伝えている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時には、時間をかけ内容を説明し理解を得ている。説明チェック表を作成し、説明に漏れがないように努めている。解約時は、必要があれば他の施設等の対応が決まってから解約している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	意見箱設置や重要事項説明書等に明記し、掲示板で公表していることを説明し、理解を得ている。	玄関に意見箱は設置されているが、家族の意見・要望は面会時に寄せられることが多く、面会時には必ずお茶を出し訪問し易く話し易い雰囲気作りが全スタッフに徹底され、心掛けられている。また年一回、家族会が開催され近況報告の他、家族の意見・要望の発言の場も設けられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	機会あるごとに、朝礼や部署会で職員の意見を聴き改善に取り組んでいる。	月2回、部署会を開催し情報の共有化が図られると共に意見交換も行われ、職員の意見・要望が発言できる場となっている。勤務日の関係で”主任の部署会への出席率が低い”との職員の声で開催日の変更が検討されている。また日常的に職員からの提案は随時、検討され運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	数年前より、人事評価制度を登用し自己評価により、評価者が評価し賞与に反映している。又、半期ごとの自己目標を立て質の向上に努めるよう意欲をも持たせる。資格取得した場合一時金を支給したり、敷地内に託児所があり勤務しやすい、状況整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	最低月一回は、法人内で各研修を実施し、個々に応じては必要に応じ市外等の研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一敷地内にある医療法人との関係による、看・介護職の合同の研修会を開催して研修を深めている。介護においては数年までは県の研修事業により、三次地区小規模事業所（9事業所参加）の研修会を開催し情報を共有しながら質の向上に努めたが最近開催されていないが、個々の事業所間の交流は現在もおこなわれている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所相談時の施設見学や面接に時間をとり、本人の心配事や不安を把握し、受け止める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学や利用内容等の説明時に時間をとり、家族は特に高齢化した場合(治療の必要がある場合)のことが多いので、その状況により相談しながら行なうことで理解を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず、家族・本人の困っていること不安を聴き、不安を取り除くような介護計画を作成し、納得してもらうよう同意を得るよう努めている。利用者や家族の不安を取除き安心して生活していただけるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除や料理手伝い等の会話の中で学ぶことも多いので、常に声がけをし、職員に分からないことを聴き信頼関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会や来訪時に利用者の生活状況を、今までの情報交換を行い、コミュニケーションを図り支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族・知人等の来園時、コーヒーやお茶等を提供しゆっくり落ち着いて話ができるよう努めている。また、時には利用者の近隣までドライブをし、昔を思い出すように努めている。	基本的に、墓参り等の個人的外出は家族対応としているが、家族や知人が訪ねてきた時などはお茶を出し歓迎の意を示している。また、再度、訪問し易い雰囲気作りに努め、馴染みの関係が途切れないよう側面的な支援がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ディールームでの座る位置を工夫したり、レクリエーションなどでみんなで関るようにし、支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院者の場合、2～3日に一度は極力面会をする様努めている。他の施設等に入所・利用され契約が終了しても、月一回程度の面会を約6ヶ月間は継続し、関わりを保つように努力している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的に行う行事以外は、読書・編み物等テレビ鑑賞など自由な時間を過ごせるようにしている。	日々の生活の中で声かけしたり、日頃の会話の中で思いや意向を把握することが多い。特に「お茶タイム」では職員も一緒に利用者寄り添い、ゆったりとした時間を過ごす中で思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面接時に十分把握できないこともあるので、利用者によっては家族の来訪時に出来るだけ聴取する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家族や本人の面接や会話。日々の暮らしの中からの中から、個々に応じた趣味・特技を把握する様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画を作成する時は、家族や本人と話し合いをしてその人らしい生活が出来る様介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は利用者の状態に応じて定期的に見直しが行われている。リーダーにより記入された日々の生活記録の資料をもとに担当者会議を開き関係者の意見を反映した介護計画案が作成されている。更にその内容を家族・本人に充分説明し、承認をもらったものを最終決定分としている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>独自の生活記録簿（様式）により、職員間の情報を共有しやすくし、見直しや情報交換しながら見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>担当者が個々の内容を常に把握し、要望・体調管理を配慮しながら、柔軟な支援をしている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議で意見を聴き又、ボランティアや警察、消防機関等と協力しながら支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>家族等の了解を得て、認知症専門医の定期受診をし、症状によっては他の医療機関受診の支援をしている。</p>	<p>企業グループ内に認知症を専門とする医療機関が経営されており、そこで定期的な受診が行われている。入居時に確認した専門医等のその他の医療機関の受診は原則、家族対応としているが、かなりの頻度で職員対応することが多く柔軟で適切な支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期受診する医療機関の看護師による、週1～2回の健康チェックにより良好な関係を保持しながら、状況により受診の必要性の相談を電話等で常に連絡・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行くなどし、家族・医療機関へは医療相談員との情報交換や相談に努め、退院時に備えて連携している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、主治医と相談しながら全員で方針を共有していくことを説明している。	入居時に契約書に謳っている「看取りの指針」について説明し、事前確認をしている。重度化した時点で医師の意見を踏まえ、本人家族の意向を再確認し、看取り介護の希望にも沿う方向で対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒防止などは、カーペット・マットを敷くなどして工夫している。誤薬防止は、職員が直接手渡し確認している。個々の介護計画により、事故防止に取り組み、訓練や救急対応の研修（消防署指導）も行なった。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災訓練(夜間想定を含め)は実施しているが、地域の防災マップにより避難箇所等の確認を行い、運営推進会議などで協力を依頼している。	年2回の消防訓練のうち一回は消防署指導のもと実施している。火災報知機は消防署と数名の職員宅へ自動通報となっている。運営推進会議で災害時の協力要請がされている他、近隣民家より協力の意向も確認されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間や、研修や会議等でプライバシーの確保や、言葉かけを行い信頼関係を作る様徹底を行っている。	「一人の人間としての人格の尊重やプライバシーの保護の重要性」について社内研修や会議で徹底が図られている。また朝礼等でも「部屋に入る時は必ずノック・声かけをする、汚れたものを早く出してと本人が恥ずかしがる事項等は人前で大きな声で言わない」など細かい配慮が必要なことを常に確認・徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をし、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	定期的に行う行事以外は、個々にあった自由な時間を過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人に合った服装を重視し、常に清潔にした着やすいものを身に着けて貰っている。また、出張理容訪問により、頭髪の乱れにも気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	園の菜園で四季に応じた野菜を栽培し、畑で出来た喜びや、調理の下準備や配膳・後片付けをしてもらいながら食事の楽しみを実感してもらうようにしている。	食事作りのメインは職員が行うが利用者也野菜の皮むきやテーブル拭き等、出来る範囲で参加している。菜園で出来た野菜等を食材に使用するときは皆喜ばれている。おひなさまにはバラ寿司を作ったり誕生会や敬老会にも特別食を作り食事が楽しめるよう工夫されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えた献立表を作成し、提供している。また、食事の記録により個々に応じた量や、一日を通じお茶の時間を決め、水分補給を習慣化している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後個々の状態により、利用者で歯磨きをしてもらい、確認しながら口腔ケアの介助を行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を作成し、個々に応じ排泄時間には、トイレ誘導を行う支援をしている。	はっきりした意思表示がない時は排泄表を参考にしたり表情や仕草をみてトイレ誘導している。また極力オムツを減らし、パットや布パンツに切り替えられるよう排泄の自立に向けた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	予防と対応のための、散歩や飲食物の工夫等で便秘解消に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	週の曜日で入浴日を決めているが，本人の体調や希望により変更することで楽しんで入浴してもらっている。	週2回、曜日設定で入浴スケジュールがたてられているが、本人の体調や希望により時間をずらす等、柔軟な対応で楽しんで入浴できるよう配慮がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣や体調確認により、日々安心して気持ちよく過ごせるようにし、また穏やかな時間を共有し安眠への支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用、用法等理解しているが時により、かかりつけ医の看護師に再確認をするなど、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の生活歴により、農作業や掃除・レクなど支援をしている。また嗜好品も利用者個々の要求や家族の希望を聞きその人にあったものを購入し、日々の生活をしていただいている。趣味なども個々に応じ居室・食堂など他の楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブ等で戸外に出かけられるよう計画し、支援している。また年間を通じ春や秋は、市外の遠出ドライブを実施し食事や景色を楽しんでもらっている。	建物の前後に駐車場を兼ねた広い庭や菜園があり、椅子を出してくつろいだり、野菜の収穫を楽しんでいる。また日常的には隣接する社会福祉センターに散歩に出かけている。マイクロバスで花見や紅葉狩りに出かけたたり、観光と外食を兼ねたドライブを楽しむなど快適な外出支援がされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望や管理能力を家族と相談し支援している。購入時は、できるだけ、本人に支払って貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば、電話や手紙のやり取りができるように電話番号で確認したり、住所の宛名書きするなど積極的に支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室や共用部分等常に清潔にし、居心地よく過ごせるような工夫をし、季節感のある花や置物等を飾って工夫している。	リビングは大きなガラス戸で掃き出しとなっており室内は明るくゆったりとしている。玄関や廊下を含めた共用空間は整理整頓が行き届きスッキリしている。床はワックスがけが年に数回おこなわれ艶があり清潔感が溢れた快適な生活空間が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	広間以外にもソファを置くなどして、居室以外の場所でも過ごせるよう居場所の工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談し、馴染みのものを置くなど個々の居室の配慮している。	テーブルや椅子の小物家具、テレビや花瓶等の備品は馴染みのものが持ち込まれている。家族や孫の写真が飾られるなど、自分好みの部屋となっている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が送れるように、手すり等は設置してあるが、十分とは思えない（市の設計・市所有物施設）ので、事業者負担で安心して生活できるよう改修をして、更に安心して生活できる様にしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ふの慈照園

作成日 平成26年4月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	以前に比べ高齢化が進み、外出等においても利用者の方が希望されないことがある。	年間を通じ遠出外出を計画しているが、近隣における外出を今まで以上に多く実施する。	墓参り・住んでいた場所・懐かしい場所・等本人の希望を取り入れた外出に取組む。	1 2ヶ月
2	4	運営推進会議は、年6回開催したが、家族の参加がない	家族の方に事業所の取り組み等を知ってもらう為に参加できる態勢をつくる。	当面は、毎月の連絡分で趣旨を説明し、出席を依頼する。	1 2ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。